

- 平成25年7月25日にインドネシア国マルク州のワイエラ川の天然ダムが決壊し、下流のネグリ・リマ村に甚大な被害が発生。
- 平成25年8月2日にインドネシア政府より、残存する天然ダムの危険度評価と今後の対応に関する技術的支援の要請。
- 平成25年8月18日から7日間、土砂災害専門家による現地調査団（5名）を現地に派遣



現地調査状況



インドネシア政府への技術的助言

インドネシア政府に対する技術的助言

- 越流によって生じた流路の兩岸は、比高が高く（約100m）、急勾配（約40°）で不安定な状態にあり、崩壊により再閉塞するおそれが高い。
- 下流河道には、20mの河床上昇が確認された地点もある等、大量の不安定土砂が堆積しており、次期洪水により土砂流出が懸念される。
- 下流氾濫範囲では、河道が完全に埋没しており、次期出水時にどの方向にも洪水が流れる恐れがある。
- 今後必要なハード対策は以下のとおり。

第1段階 河道の掘削と導流堤の整備（河道を固定することで洪水流を安定化させ、下流住民の洪水被害を減らすことを目的とする。）

第2段階 扇頂部に遊砂地を整備（土砂を捕捉し、集落を流れる河道への土砂堆積を防ぐことを目的とする。）

第3段階 砂防堰堤の整備（河床侵食を制御し、河床勾配を安定化させることを目的とする。）

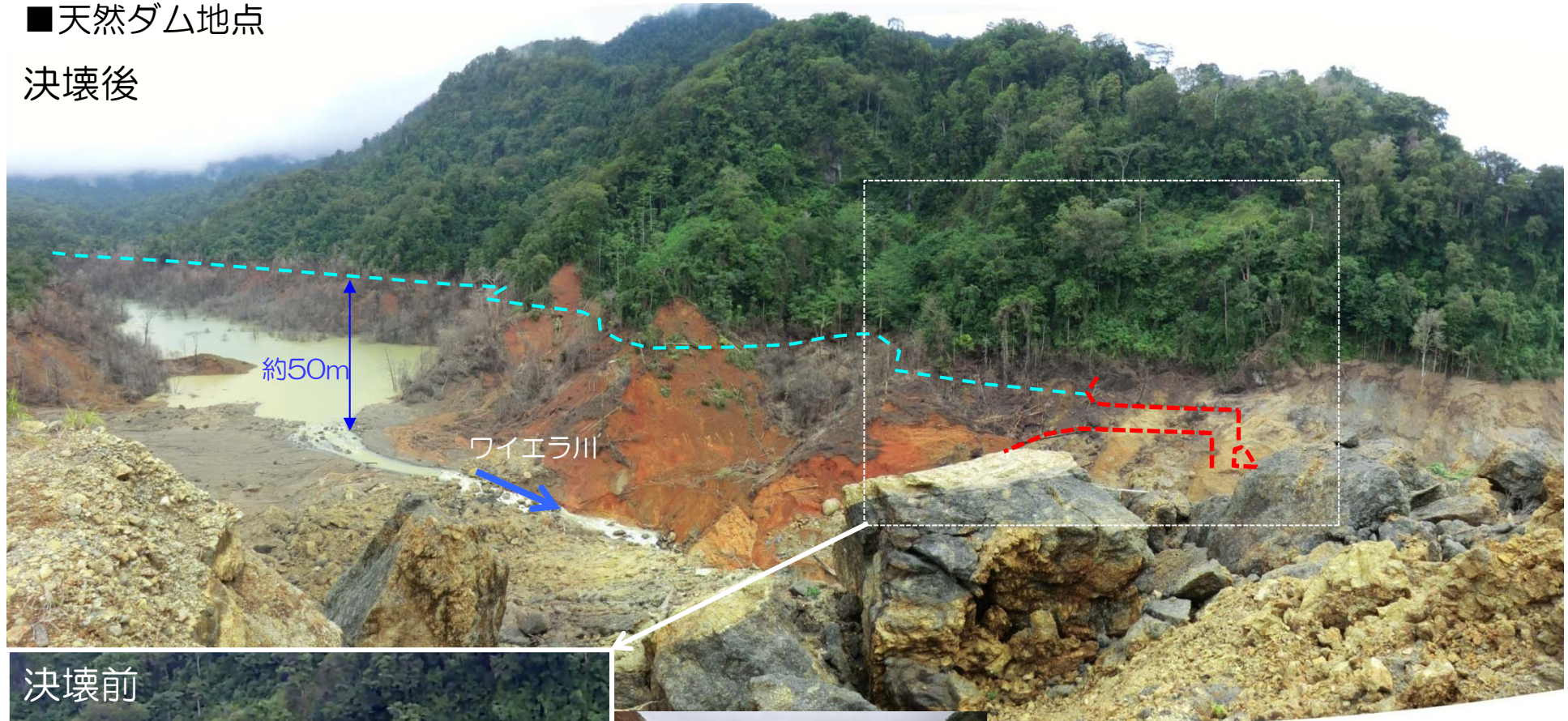
第4段階 決壊後の天然ダムと周辺斜面の保全（残存する土塊と今後天然ダムを形成する恐れのある不安定土塊を、切土や盛土で安定化することを目的とする。）

- 今後必要なソフト対策は以下のとおり。

7/25の天然ダム決壊によって生じた洪水の氾濫範囲内は引き続き警戒が必要
天然ダム周辺斜面の監視、下流部の洪水の監視が必要

■天然ダム地点

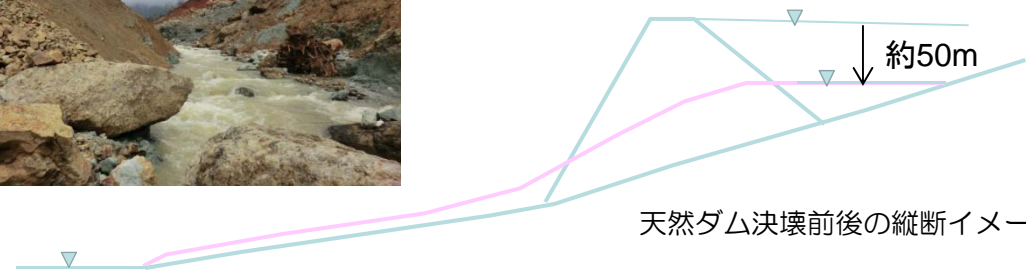
決壊後



決壊前



天然ダム土塊末端



天然ダム決壊前後の縦断イメージ

■越流によって生じた流路
(両岸不安定)



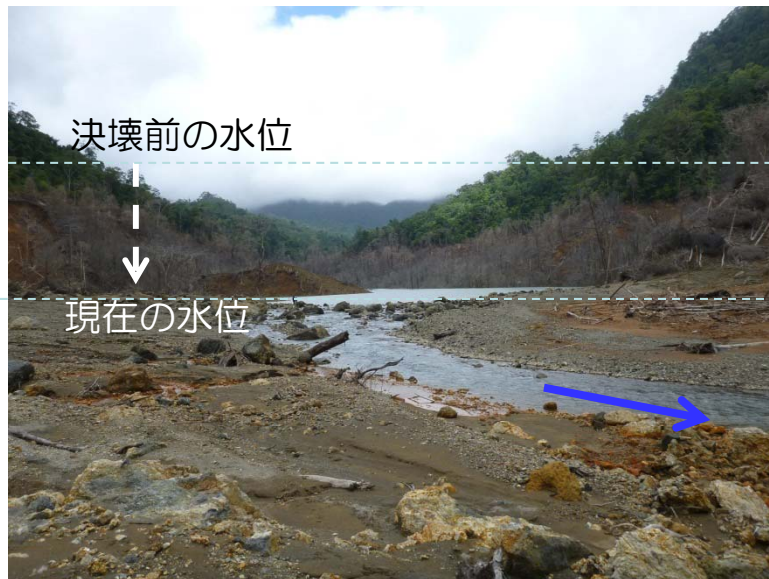
■ワイエラ川中流の河床上昇



決壊前

約20m

■天然ダム天端付近



決壊後

約20m
河床上昇

■ 浸水実績の調査結果

